

# 平成20年4月から外来の薬は『院外処方』になります

厚生労働省では、安全で効率的な薬の処方ができる医薬分業を進めています。市立佐沼病院と豊里病院でも、これまで希望する患者さんに対して実施してきた「院外処方せん」の発行を、今年4月から一部特定の患者さんを除き、すべての外来患者さんに対して「院外処方せん」の発行を行います。これにより、治療は病院で行い薬は保険調剤薬局から受け取るようになります。なお、登米・米谷・よねやまの各病院は従来どおりです。

## □医薬分業とは

市民皆さんが病気にかかって病院や診療所に行くと、医師は診察をして治療に必要な薬を選び、飲む量や使い方を決めます。これらを記載したものを「処方せん」といいます。保険調剤薬局では、この処方せんに基づいて薬を調剤し、飲み方などの指導を行いながら皆さんに薬を渡しますが、医師と薬剤師がそれぞれの役割を分担することを医薬分業といいます。

## □医薬分業の必要性は

医薬分業はなぜ必要なのでしょう。その理由として、  
**①**高齢化社会の到来に伴い、慢性疾患、合併症など疾病構造が多様化し、医薬品使用が多種で長期化しています。また、医療ニーズの多様化に伴い、一人の患者さんが複数の診療所や診療科を受診するケースが増えてきています。薬の種類が増え、同じ効能の薬を重複投与や飲み合わせによる副作用を起こしてしまうことも少なくありません。このような弊害をなくすため、必要と認められた薬は同じ薬局から調剤してもらう「かかりつけ薬局」を持つことで、安全にしかも効率良く薬を飲むことができます。

**②**医薬品に対する住民意識の変化や安全使用への関心の高まりなどにより、患者さんが服用している薬の特徴や副作用など、薬剤師によるきめ細かな服薬指導が必要となっています。県内の多くの病院や診療所では、すでにこの医薬分業制度を取り入れています。

## □「かかりつけ薬局」を持ちましょう

医薬分業は、病院・診療所からもらった処方せんをもとに、病院外の保険調剤薬局で調剤してもらうこととなりますので、調剤してもらう薬局を皆さんの「かかりつけ薬局」として決め、服薬の指導管理などをすべてその薬局で受けるようにしましょう。「かかりつけ薬局」を決めることにより、保険調剤薬局では皆さんの体質や今まで服用した薬の種類など、一人一人の細かいデータである「薬歴」を総合的に把握することができ、それをもとに体に合わない薬や飲み合わせなどによる副作用などが起こらないように、安全をチェックしながら薬の正しい使い方の指導をしてもらうことができますようになります。

一方、「薬の代金が若干高くなる」「病院で薬を受け取ることができないため、薬をもらうために二度手間になる」などの不都合が生じることも事実です。しかし、副作用の未然防止など、より安全で効果が十分に得られるような薬物療法を進めるためには、医薬分業は大変効果的な方法です。このようなことから、平成20年4月から「院外処方せん」の発行を実施しますので、市民皆様のご協力をご理解をお願いします。

## 【問い合わせ】

登米市立佐沼病院 ☎ 0220 (22) 5511  
 登米市立豊里病院 ☎ 0225 (76) 2023



市立佐沼病院



市立豊里病院

## 汚泥再生共同処理センターの概要

- 建設場所 登米市南方町寺袋69番地内 (現衛生センター敷地内)
- 敷地面積 9,682㎡
- 施設 構造：R/C地下1階 地上2階  
 規模：建築面積 2,790㎡  
 延床面積 6,328㎡  
 概要：処理能力 128K L/日
- 工期 平成22年3月完成
- 総事業費 約25億円



汚泥再生共同処理センターのイメージ図

# 汚泥再生共同処理センターの建設工事が始まる

## 有機性廃棄物処理と資源リサイクルの複合施設

平成22年3月の完成を目指します

環境に配慮した有機性廃棄物処理と、資源リサイクルの複合施設「汚泥再生共同処理センター」の建設工事が始まります。

この事業の実施については、既存施設が築40年以上も経過し老朽化していることと、処理の安全性や安定化、処理水質の向上などを目的に、平成5年度から協議を進めてきました。

工事は現在の衛生センターを稼働させながら、仮設と配管の切り回しを行っていきます。既存施設を撤去し、順次新しい設備に入れ替えて、同敷地内に管理棟と処理棟一体型の施設を整備します。

施工業者については、平成19年6月定例会に提案、議決

され、水道機工株式会社（東京都）と契約しています。

## 環境省と農林水産省の共同事業

環境省所管の「循環型社会形成推進交付金事業」と農林水産省所管の「農業集落排水資源循環統合補助事業」の共同事業として実施します。

これまでの衛生処理を主な目的とした、し尿処理施設に加えて、農業集落排水施設から発生する汚泥の処理や資源化など、有機性廃棄物の処理とリサイクル施設を兼ね備えた複合施設となります。

施設は大気や騒音、振動、悪臭、水質など、周辺環境に十分に配慮しながら自然と調和した信頼性の高い処理と資源化を行います。

また、処理に伴い発生する汚泥を脱水、乾燥後、炭化し



安全祈願祭でくわ入れをする布施市長

て肥料や土壌改良材として有効利用することで、循環型社会形成に寄与します。

## 工場の安全祈願祭を実施

安全祈願祭・起工式が11月26日、衛生センター敷地内で開催され、発注者の布施市長をはじめ、地元行政長、工事関係者ら約40人が出席しました。

式では、関係者によるくわ入れなどが行われ、建設工事の安全を願いました。

## 問い合わせ

環境事業所衛生センター  
 ☎ 02220 (58) 2254